

ファーマーフィールドスクールは小さなパイロットプログラムにおいては農業実践、収穫、収入を向上させるが、大規模なプログラムにおいてはそうではない



Photo by Ben Barber, USAID

アジア、アフリカ、ラテンアメリカにおいては、少なくとも1000万人の農業従事者がファーマーフィールドスクールを卒業している

このレビューの目的は何か？

このキャンベルシステムティックレビューは、低中所得国において、ファーマーフィールドスクールが中間的なアウトカム（例えば知識や農薬使用）と最終的なアウトカム（例えば農業における収穫量、収入、エンパワメント）を向上させるうえでどんな効果を持っているかについて検証している。また、プログラムの成功と失敗と結びつけられた実施上のファクターについても検証している。このレビューは92の影響評価から得られたエビデンスを統合しており、うち15は政策志向の知見とするにふさわしいものであり、20は質的研究であった。

ファーマーフィールドスクールは農業従事者の知識とよりよい実践の導入を向上させ、農業生産と収入を増加させる。しかし、知識とよりよい実践はプログラムに参加していない近隣の農業従事者には伝播せず、大規模なプログラムは効率的ではない。

何についてのレビューか？

ファーマーフィールドスクールの目的は、農家がよりよい決定をできるようになるスキル向上させることにある。異なるプログラムは異なる目的を持っているが、それらはたいてい農薬の使用を減少させることや、よりよい農業実践の促進や、収穫量や収入を増やすことを目的としている。ファーマーフィールドスクールはファシリテーターを用いて、農業のシーズンまるまるにおいて、参加型で、経験的な学習手法を取る。例えば、ファーマーフィールドスクールは農業従事者たちが異なる農業手法との結果を比較できる場合には、「実践のプロット」を用いる。肥料を用いることのような単純な実践を主に教えるような既存の農業拡張プロジェクトとは対照的に、ファーマーフィールドスクールはしばしば全体的な技術、例えば総合的害虫管理などを教える。

ファーマーフィールドスクールは広くアジア、アフリカ、ラテンアメリカにおいて用いられており、おおよそ1000万から1500万の農家に行きわたっている。このレビューはファーマーフィールドスクールが農業従事者の知識や実践を変化させることや、収穫や収入、環境への影響や農業従事者のエンパワメントを向上させるうえで持っている影響について検証している。

含まれている研究は何か？

このレビューは低・中所得国において行われた92の影響評価研究を含んでいる。これらの研究には、ファーマーフィールドスクールプロジェクトを変化させるうえで障壁となるもの、促進する要因となるものについての20の質的評価が含まれている。



Photo: Crops for the Future

この研究がいかに最新のものか？

このレビューの著者は2012年8月までに発表された研究について調査した。また、このキャンベルシステマティックレビューは2014年9月に発表された。

キャンベルコラボレーションとは何か？

キャンベルコラボレーションとは、国際的であり、自発的であり、非営利の研究ネットワークで、システマティックレビューを出版している。我々は社会科学や行動科学のプログラムのエビデンスについて要約し、その質を評価している。我々の目的は、人々がよりよい選択をすること、よりよい政治的決断をすることを助けることである。

この要約について

この要約はRuth Pittによってキャンベルシステマティックレビュー「農業の実践と農業従事者のアウトカムを向上させるためのファーマーフィールドスクール」

(Hugh Waddington, Birte Snilstveit, Jorge Hombrados, Martina Vojtkova, Daniel Phillips, Phillip Davies and Howard White 2014年6月) に基づいて書かれている(DOI: 10.4073/csr.2014.6)。Tanya Kristiansenがこの要約をデザインし直し編集した。この要約を作成するうえで、アメリカ研究基金による金銭的な支援があったことを明記しておく。



ファーマーフィールドスクールが農業と環境のアウトカムに対して持つ影響は何か？

ファーマーフィールドスクールは農業従事者の知識を向上させ、利益と生むような実践の導入を促進し、農薬の過剰使用を減少させる。このことは農家に対して正のアウトカムをもたらす。平均して、農業収穫高は13パーセント上昇し、収入は20パーセント上昇した。しかし、これらのアウトカムのための証拠は短期間のパイロットプログラムの評価に由来するものであり、バイアスのリスクが低い研究はなかった。

小規模なパイロットプログラムにおいては、ファーマーフィールドスクールは農業従事者の知識を改善させ、有益な実践の導入をもたらす、収穫高や収入を増加させる

国家規模で行われるプログラムにおいては、実践から2年以降経ってから行われた研究によってプログラムから正の結果を得ることはできなかった。大規模なプログラムにとっては、適切なファシリテーターをリクルーティングしたりトレーニングしたりすることが問題であった。

ファーマーフィールドスクールのアウトカムは何か？

エンパワメントは多くのファーマーフィールドスクールの主要な目的であるが、このアウトカムについて情報を集めた厳密な研究はわずかしかなかった。わずかな質的研究によって、ファーマーフィールドスクールに参加した農業従事者はより自信を持っているということが示唆された。

ファーマーフィールドスクールに参加していない農業従事者は、ファーマーフィールドスクールに参加した近隣の農業従事者から学ぶわけではない。ファーマーフィールドスクールにおいて教えられる複雑な概念は、恐らく会話や自学によって学ぶことは難しく、ゆえにファーマーフィールドスクールで得られる経験は介入が働くことの重要な理由となる。

このレビューの知見が意味していることは何か？

ファーマーフィールドスクールは特定の文脈においては効果的であり、徐々にスケールアップしていくのに適しているが、大規模な問題には適していないようである。しかし、ファーマーフィールドスクールについて大規模に実施した場合についてのエビデンスベースは限られている。ゆえにより一層厳密な研究、国家規模でのプログラムの実践と効果について検証する研究が求められている。